

東京都立青山高等学校 令和7年度学校経営報告
【今年度の取組と自己評価、課題と対策】

校長 永森 比人美

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
組織 教育職員	企画調整会議での議論の活性化による学校経営の一層の充実改善	○年間31回実施し、学校全体に関わる教育活動について調整 ●協議、連絡事項の分掌や学年への周知不足	B	○職員会議や朝打合せで補完するとともに、主任が会議に欠席の際は代理を立て周知徹底
	学習指導、生活指導、特別活動等における生徒保護者に係る情報の迅速な共有	○生徒へはTeams、保護者へはClassi東京都版を活用し、一斉配信	A	○必要に応じて紙での配布、個別連絡等で補完
	進学実績向上に資する専門性の一層の向上	○外部講師を招いての進路研修会（講演会）の実施 ○各予備校主催の入試研究会の案内	B	○大学別の詳細や科目ごとの指導法等は個別の対策が必要。各教員が進学指導重点校の教員としての矜持をもって授業を展開
	体罰や個人情報漏えい等の服務事故の防止	○服務事故防止強化月間における研修実施 ○服務事故ゼロ	A	○ヒヤリハット事例の共有
	個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開、生徒及び保護者との面談の実施	○1, 2学期は全員個人面談を実施。3学期は個々に応じて実施。 ●保護者面談は要望に応える形で実施	B	○三者面談の設定
	担当部署に関わらず、学校行事等の運営への積極的協力	○儀式的行事、体育祭、外苑祭、入学者選抜など全員体制で実施 ●役割分担など事前の丁寧な調整が必要	A	○実施要項の早めの周知
	学校ポータルサイト（Webアンケートを含む）の高度機能化と及び保護者との情報共有の一層の迅速化	○Classi東京都版への保護者の肯定的評価99%	A	○誤送信防止のため、校内研修実施
	日本オラクル社及び他の企業や大学と連携した進学指導重点校としての探究学習の質の向上	○1学年対象の日本オラクルワークショップの実施（年3回） ○1, 2学年の探究学習のベネッセキャリアナビの導入	A	○企業連携は連携の維持が課題であり、連携の維持を目的とした企業担当者との定期的なコミュニケーションが必要
	ライフワークバランスの実現に向けたテレワーク（在宅勤務）の適正な活用	○テレワーク活用者24名	A	○開始終了報告と成果の確認徹底

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
組織 行政職員	進学実績の向上に資する学習環境整備等の企画提案など学校経営に参画	○進学指導専門員を活用した自習室の環境整備	A	○自習室の利用規則の整理・周知が必要
	中長期的視点に立脚した自律経営推進予算の編成と効率的執行	○予算調整会議の活用、予算編成指針に基づく予算編成及び執行	A	○補正予算を効率的に活用
	積立金等の私費の適正かつ学校経営に則した執行管理	○予算に基づき、計画的な執行を実施	B	○事前承認の徹底
	副校長等と連携した、校内施設設備の安全点検と増改修推進のための支援センター、高等学校教育課との折衝	○校内施設設備の安全点検などを実施	C	○施設の老朽化による不具合の発生。契約不調による個別空調化工事の遅延
	学校ポータルサイトによる保護者通知等の完全ペーパーレス化を実現	○Classiを活用した保護者通知等の実施	A	○ペーパーレス化と保護者への迅速かつ確実な連絡の実現
	業者選定委員会、安全衛生委員会等を利用した業務改善	○産業医による個別面接の実施	B	○個別面接の十分な時間の確保
	薬剤師と連携した学習環境のさらなる向上	○薬剤師による定期的な学習環境の確認	B	○水質の改善が継続課題
	ライフワークバランスの実現に向けたテレワーク（在宅勤務）の適正な活用	○テレワークでの研修受講	C	○在校職員の業務負担。テレワークを職員が平等に取得できる調整が必要
	外苑会との連携の一層の強化、近隣諸団体等との連携の一層の推進	○奨学金の募集	B	○近隣諸団体との連携強化

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
施設・設備	全教室個別空調化に向けた実施計画の策定（造改修要望）	○3か年計画で実施予定	D	○入札不調
	グラウンドの人工芝生化と外構整備	○施設増改修要望を提出 ○樹木の剪定及び伐採の実施	C	○グラウンドの人工芝生化は都の基準外 ○立地条件や予算の関係で計画的な処理が困難
	自習室LED化工事	○施設増改修要望を提出	C	○実現せず（校内の職員では対応できない状態）
	校費縮減に伴う校内予算の精選と重点支出の設定	○予算編成指針に基づく予算編成の実施	A	○補正予算を効率的に活用

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
学習指導等	一人1台端末の授業での活用法の研究を継続発展	○授業での一人1台端末利用の推進 ○一人1台端末のサポート契約一本化	B	○一人1台端末の選定機種検討
	学習のしおり（年間指導計画）の精度向上の継続及び観点別評価の着実な実施	○Teamsにより生徒一人一人に配信 ○HPへの掲載	A	○レイアウト調整の時間短縮
	授業での学習のねらいの明示、知識技能を活用する場面の設定、話し合いや発表活動等による主体的な学びの実現	○指導計画の周知の徹底 ○教員相互の授業参観	B	○授業と考査、評価の一体化 ○相互授業参観実施のための時間割の工夫
	校内学力テストに記述式問題、初見の問題、新傾向の問題を盛り込むとともに、進路指導の決め手とできる水準までの精度向上を実現	○学力テストと課題テストのそれぞれの目的の確認	B	○各教科において、出題方針や内容等の検討を引き続き検討の必要性
	校内学力テスト、外部模擬試験の結果分析のICT化と指導の充実改善	○学力テストの結果の蓄積と進路指導への活用 ○外部模試の結果はダウンロードサービスにて確認	B	○ICT化された進路情報の活用促進が課題
	授業評価等の結果分析と、成果を挙げている取組等を教科学年で共有	○授業観察、生徒による授業評価、自己申告面接をセットで実施 ●授業評価の結果分析が不十分	B	○教科会の議題として設定し、教科主任会で共有
	教員の相互授業参観を年2回（6月、11月）実施	○通年で実施 ●参観する/しない教員が固定化	B	○必ず一人1回参観するように周知
	GTEC受験、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用	○1学年全員がTGG参加	A	○実施時期、成果検証方法の検討
	学校図書館を活用した授業、「青山高校の100冊」を通じて、不読率を10%未満に低減	○新着図書、特設コーナー、図書館だより等による広報	C	○「青山高校の100冊」の更新、周知 ●2、3年生の貸出冊数の減少（受験勉強と未読者率の関係の調査）
	図書館の開館時間を経営補佐（月16日勤務の中で運用）の特別業務に位置付け、午後6時までとする。	○開館時間の延長、自習場所として活用機会増加	A	○非常勤教員の勤務日によって左右され、システムとしての確立が課題
	休業期間中等の課題の分量は学年主任が教科と相談の上、適切に管理	○（1、2年）課題の分量は教科間で調整し適切に管理 ○（3年）生徒の主体性を尊重し、画一的な課題はなし	A	○教科主任会等での情報共有と調整が必要
	ストリート装飾の展示継続	○継続して展示	B	○継続予定

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
進路指導	重点校の使命として、受験指導ではなく、進学指導を推進するため、76期生の取組で参考とすべき点を78期生以降に着実に継承	○進路職員会議（4月）で進路指導の方向性を共有 ○出願検討会（ケース会議）を通じて生徒の出願の方向性を共有	B	○学年間で指導に差が生じないよう進路部と学年の連携が課題 ○学年と進路部の役割分担を明確にし連携促進 ◎78期生の進学実績が過去最高値となった理由をエビデンスに基づき分析
	進路職員会議、ケース会議のICT化と精度向上	○会議資料は電子化して保存・共有	B	○電子データの整理・保存方法に工夫が必要
	二者及び三者面談における外部模擬試験等の活用法や進路指導の手法に関する進路部主催の研修会の開催	○（進路）面談で活用できる進路情報の提供、進路部主催の研修会の実施（年2回） ○（学年）進路部と連携し模擬試験の結果分析、個人面談 ○学年集会、保護者会にて情報提供	B	○面談の目的、実施時期、回数等について整理し校内で確認
	校内学力テスト、外部模擬試験の継続実施（校内学力テストの一層の精度向上に向けた各教科の取組を支援）	○学力テストの目的や問題作成に関する検討実施	B	○外部模試の種類、時期、回数の検討
	模擬試験ごとの志望者リストの作成と希望に応じた講習の実施	○模試ごとに学年会で志望者リストの共有、希望に応じた講習の実施	B	○進路部と学年の役割分担
	模擬試験は、学年集会等の前後で各教科担当の解説を加えて返却	○学年集会にて模擬試験分析を実施。各教科担当による解説、模試の位置づけ、心の在り方等について指導	A	○進路部と学年の役割分担
	講習及び補習の実施（3年：難関国公立大、1・2年：習熟度別）	○各学期、長期休業期間ごとの講習実施	A	○講習の内容の更なる充実
	3年：共通テストシミュレーションの継続、共通テスト及び二次試験対応時間割の編成（2学期末から2月末まで）記述等個別指導の徹底	○共通テストシミュレーション（3年）、共通テスト体験受験（1, 2年）の実施 ○個別添削指導は各教科で実施	A	○共通テストシミュレーションの実施体制が課題 ○入選期間に重なるため国立前期試験直前は個別添削指導に工夫が必要

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
生徒の健全育成	生徒総会、外苑祭等の生徒会活動の指導	○生徒総会・外苑祭などの適切な実施	A	○生徒会や外苑祭総務との意見交換、課題の改善
	いじめアンケート実施（年3回）による未然防止、早期発見	○記名方式、オンライン（第2回、3回はコンディションレポート）で実施 ○企画調整会議やいじめ対策委員会で共有、対策協議	A	○コンディションレポートの操作方法の周知
	いじめ対策委員会、特別支援教育委員会の定期開催	○2回開催 ○エリアネットワークを活用し、コーディネーターの知見を校内で共有	A	○実施時期、内容、方法について検討が必要
	校内美化活動の徹底	○定期的な美化デーの実施 ○生徒会によるボランティア清掃を実施	B	○私物の放置（忘れ物）が多い ◎清掃に関する生徒会活動の活性化
	校内施設設備使用のルール徹底	○ルール遵守について徹底	A	○ルールの徹底を継続
	SNSの適切な活用の指導、ゲーム等への依存防止、盗撮及び薬物事故ゼロの指導	○セーフティ教室の実施 ○始業式・終業式・学年集会等での指導	A	○定期的なSNSに関する指導の実施
	あいさつ指導、遅刻防止の指導の実施	○挨拶を積極的に行う運動の実施 ○遅刻指導の実施	A	○あいさつ指導、遅刻指導の継続
	セーフティ教室の実施	○セーフティ教室を実施 ○Teamsを持ちいて生徒に情報を発信	A	○年間行事の中への位置付け
	地域行事やイベントへの参加など、地域との交流を通じて、多様性を相互に認め合い、共生できる健全な精神を培う	○青山熊野神社ボランティア実施（83名） ○共同しての防災訓練の実施	A	○交流・連携の継続
	自習室の美化を含めた管理の徹底	○生徒の肯定的回答85% ○（3年）多くの生徒が最後まで自習室を使用した。	A	○管理者の確保が課題 ○開室日数の増加要望 ○（3年）開室申請は個人ではなくグループで実施

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
生徒の心身の健康	管理職を含め、教職員が気付いた生徒に係る情報は、企画調整会議特別支援教育推進委員会等で必ず共有し、学校としての具体的な支援等を実施	○情報を共有し個別の指導に活用 ○生徒についての情報交換を企画調整会議等で実施	A	○学年会で気になる生徒の情報交換
	生徒の変化に敏感に、迅速に対応して、「何もなくてよかった」という共通認識を職場内で確立	○名前が挙がった生徒に対して迅速に対応し、学年内で共通認識を共有	A	○学年会で生徒情報の丁寧な共有
	アレルギー疾患等生徒の個別の状況把握と共有化	○合宿や修学旅行等においてアレルギー等を確認、共有化	A	○定期的な健康診断と情報共有
	生徒検診等における全校協力体制の継続	○保健委員・美化委員を中心に、全校協力のもと定期健康診断等を実施	A	○マニュアルの点検、全校体制の構築
	1学年全員面接、教員へのコンサルテーション等スクールカウンセラーの活用	○スクールカウンセラーとの生徒情報の共有	A	○生徒保健部、学年、担任との情報の共有化が必要
	教職員対象の保健研修会等（エピペン及び嘔吐処理）の実施	○エピペンや嘔吐処理の研修など、教職員に対する保険研修会を実施	A	○校内研修の確実な実施。生徒の安全安心につながる共有情報の徹底
	発達障害の理解、教員のカウンセリング能力の向上と相談体制の充実	○教員間での情報共有の実施	A	○職員会議等での情報共有・研修の実施
	スクールカウンセラーを活用した、合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援	○合理的配慮や支援を必要とする生徒に対して、教員間で情報を共有し、対応	A	○職員会議等での情報共有・研修の実施
ヤングケアラーの正確な把握を行い、適宜有効な支援を行えるよう、いじめ対策委員会等を活用	○いじめ・体罰防止アンケートの実施と回答内容の校内での共有	B	○聞き取り内容によっては外部機関との連携が必要	

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
特別活動 行事等	科学や経済分野で活躍するプロフェッショナルによる文化講演を開催	○3回実施（がん教育、生物学、内視鏡）	A	○実施時期、対象、実施方法等の検討が必要
	外苑会から紹介のある専門分野に秀でた実績のある方を講師として招聘した講演会の実施	○2回実施（7月、12月） ○事後アンケートで肯定的評価80%	A	○実施時期、対象、実施方法等の検討が必要
	国立競技場東京体育館との連携の模索	○神宮記録会の実施 ●国立競技場、東京体育館との連携は実施できず	B	○費用確保（東京体育館1日約50万円） ○雨天時や熱中症回避策の検討
	地域と連携した防災訓練避難訓練の実施	○水道局と連携し、体験を交えた内容的にバランスの取れた防災訓練を実施（3月）	A	○連携先、実施内容、方法等の継続検討
	日本の伝統文化の理解と継承を目的とする修学旅行の実施	○関西方面（3月）に実施	B	○実施時期、場所、方法等の継続検討
	健康維持とスポーツに親しむ基礎を培う体育祭の実施	○適切な種目設定を行い体育祭を実施	A	○日程や熱中症対策、種目等の継続検討
	外苑祭における演劇等の質の一層の向上	○学年間、クラス間で切磋琢磨し、外苑祭における演劇の質の向上を実現	A	○生徒の実情に合わせた日程等の検討
	校内ビブリオバトルの継続実施	○図書委員の活動として実施	A	○内容、規模の更なる充実
	Tokyo Global Gateway（英語村）を活用した英語体験学習の展開（1年生）	○2学期末に実施 ●インフルエンザの流行で欠席者多数	C	○実施時期の検討
海外派遣研修、科学の甲子園を始め各種コンテスト等に積極的に参加したい生徒の支援を行う	○国際高校主催イベントへの参加、ミネルバ大学、シンガポールの高校、フィンランド大使館との交流事業実施 ●海外派遣は実施校として選ばれず	B	○国際交流コンシェルジュの活用継続	

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
特別活動	本校の再任用教員、非常勤教員経験者を、部活動外部指導員や3年生の特別講習の講師として活用	○本校生徒の気質や実態等について理解の深い人材を活用	B	○個人に頼るのではなく組織として指導体制の構築が必要
	事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底	○保健室との連携、迅速な対応	A	○職員会議等での情報共有
	顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施	○生徒の希望や現状を把握する面談等を実施	A	○主顧問だけではなく、副顧問や担任も含め組織的な指導体制の構築
	オンラインや動画配信を含め、地域の小中学校、特別支援学校との部活動をととしての生徒同士の交流活動の継続	○青山特別支援学校との交流活動実施	B	○日程調整（推薦選抜の時期）
	進学指導重点校の要として、都内の難関国公立大学との部活動をととしての交流活動キャンパスツアーを復活（オンラインを含めて実施）	○男子バスケットボールが一橋大学と交流実施	B	○費用確保
	スポーツマインドの育成や技術指導など、地域のスポーツ施設や団体と連携した部活動の展開	○ラグビー協会との連携事業実施	B	○ラグビー部以外の連携拡大

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
地域貢献	「進学指導」につながるキャリア教育を地域企業（日本オラクル等）と共同で推進、生徒のための教育プログラムの開発と探究的活動による「志」の育成を通じて、将来を見据えた進路を実現する進学指導の実践	○日本オラクルと共同でデザイン思考に関するワークショップを実施（1年） ○ベネッセキャリアナビを通じて課題研究を行い、生徒の進路意識の形成に繋がる活動を実施	B	○デザイン思考のワークショップの実施は日本オラクルの協力が不可欠 ○学校主導で実施可能な教育プログラムの開発
	地域の諸団体と連携した地域行事や活動に関する探究活動の実現	○青山熊野神社ボランティアの実施 ○地域のボランティアと共同清掃の実施	A	○連携協力の継続
	ストリート装飾の展示継続と国立競技場や東京体育館と連携した活動の模索	●国立競技場や東京体育館との連携活動は未実施	D	○連携先、連携方法の継続検討
	外国大使館等と英語による講演や著名人知識人等を招聘した文化講演を実施	○フィンランド大使館との交流事業実施（20名参加）	A	○国際交流コンシェルジュに依頼
	地域の特別支援学校との交流活動の展開	○青山特別支援学校との交流活動実施	B	○日程調整（推薦選抜の時期）
	祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施	○青山熊野神社ボランティアの実施 ○地域のボランティアと共同清掃の実施	A	○参加生徒数の増加
	地域や地域の企業、関係機関と連携した防災訓練の実施（帰宅困難者の受け入れの「避難所運営ゲーム」を活用した実践的訓練）	○水道局と連携し、体験を交えた内容的にバランスの取れた防災訓練を実施（3月）	A	○関係機関との更なる連携強化

項目	重点目標	取組	自己評価	課題と対策
広報活動	学校ホームページの充実及びX等を活用し、各種調査のエビデンスの公表や行事や部活動等の教育活動の情報を公開し、教育活動を常に改善する原動力に変える	○ホームページ更新回数を約2倍(R6年度137回⇒R7年度261回), ホームページアクセス回数を約3倍(R6年度45万回⇒R7年度149万回)に向上	A	○コンテンツ内容の充実とターゲット層の明確化
	学校説明会、入試問題解説会等を斬新な手法を加え(オンライン開催やSNSでの発信も含め)年8回以上開催	○学校説明会2回、入試問題解説会2回、放課後の個別説明会11回、学校見学会8回、学校公開2回、個別相談会1回 ○校内展示ポスターを一新	A	○実施回数と教員負担とのバランスの考慮
	オンライン開催も含め、近隣中学校等への出前広報活動の展開	○広報部、指導教諭中心に出前授業参加(3回)	A	○入選倍率との相関分析
	中学生対象の体験授業の実施	○出前授業(3回)実施 ○青山中学校1年生来校 ●行事の際に体験授業実施	A	○入選倍率との相関分析
	オンライン開催も含め、塾等への出前広報活動	○塾や区主催の外部説明会に11回参加 ●参加教員の確保	B	○魅力発信の継続、教職員全員で広報活動を行う。
	YouTube「青高チャンネル」やDVDを活用した学校PRの展開	○「青高チャンネル」登録者数1000人達成 ○DXハイスクール特別授業で制作した動画を掲載	A	○HPを中心とした広報活動に転換予定
	外苑前青山地区の地の利を活かした生徒募集活動の展開	○アクセスの良さや、周辺環境を活用した生徒募集活動を実施	A	○リッチな立地を生かした教育活動の充実

難関国公立等現役合格者数

